

■将来の小学校の在り方に関する検討委員会 意義と経過 (R2.3 ⇒ R3.2)

設置の意義

■【設置目的と検討の視点】 小学校の規模に応じた適正配置

- ① 「村山市の児童数の急激な減少」
- ② 「学校施設の現状と長寿命化」
- ③ 「適正な学校規模・配置と子どもの教育」

■【委員会メンバー】（委員長：佐藤淳一元楯岡小校長）

○地域代表、保護者代表、学校関係、学識経験者、公募委員等24人

■【諮問から答申】 諮問 ⇒ 7回の審議 ⇒ 「答申」



市ホームページ
【答申詳細】

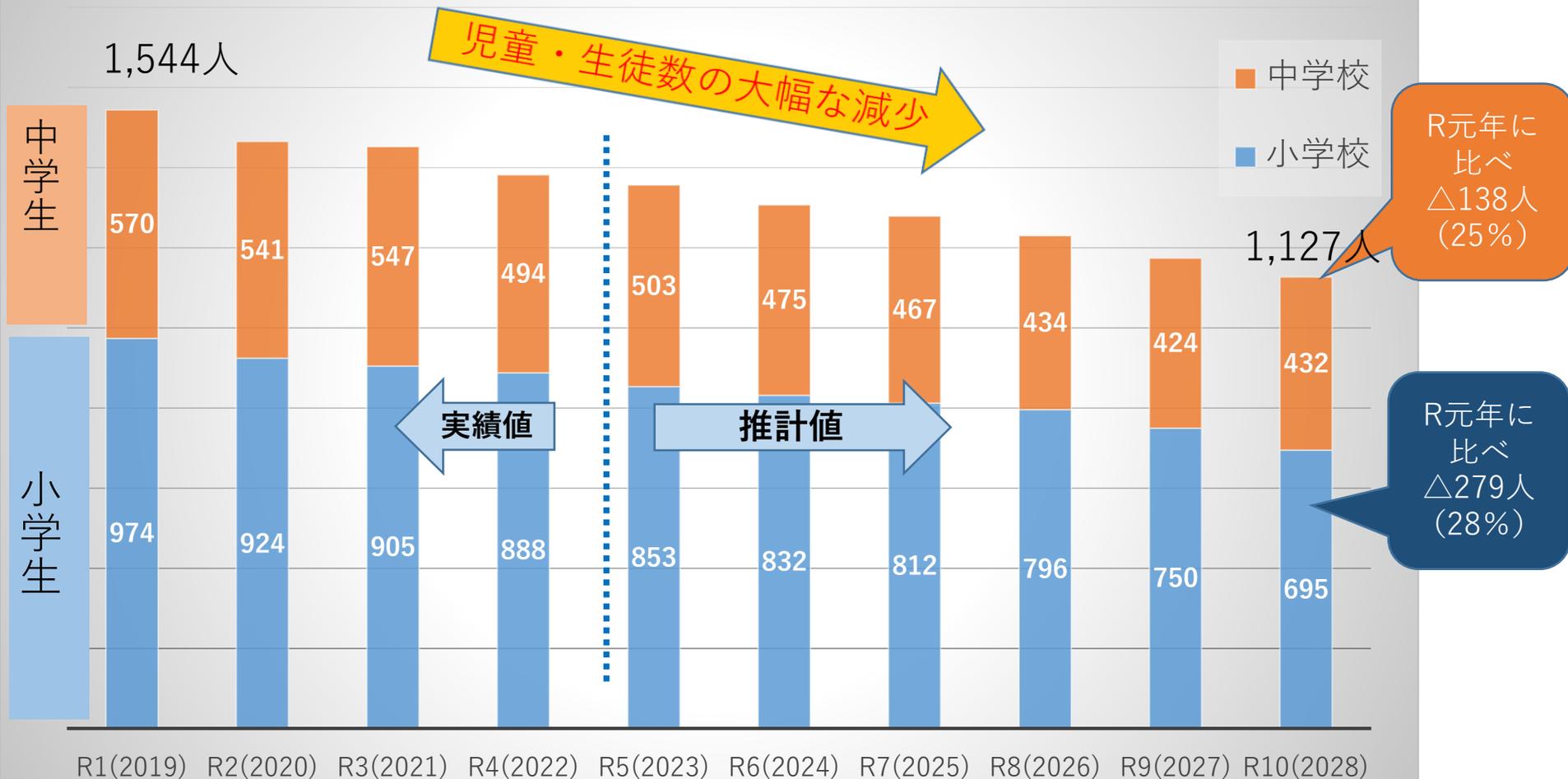
設置の経過

回数	期日	審議項目	内容
1	R2年3月	児童数推移・学校施設の現状等	児童数の減少（前回計画と比較）
2	5月	学校の長寿命化	長寿命化は、改築・修繕の事業費が大きく難しい。
3	6月	学校規模と子どもの教育	大規模・小規模、双方に長所・短所がある。地域に根ざした子ども育成
4	8月	村山市の学校の良さ・大事にしたいこと・（委員長中間的見解）	学校・地域が元気であることが重要/維持費等を考えると統合も必要
5	9月	同上 ・アンケート調査案検討	児童生徒の意見も反映される調査に
6	R3年1月	アンケート結果・答申案	妥当な調査結果/優れた教育環境を
7	2月	答申案の整理	「4つの柱」の答申案

村山市内の小中学校 児童・生徒数の推移

R1⇒R10 (小学校28%減/中学校25%減)

市内児童生徒数 推移表 (下:小学生/上:中学生)



〈骨子案①〉小学校の適正配置等について

■楯岡中、葉山中学校区で、それぞれ1校(東西2校)に統合することが望ましい。

(ポイント)

- ①将来の急激な児童数減少、複式学級の増加等が見込まれ、望ましい子どもの教育条件の維持が困難になることが予想される。
- ②校舎改築等施設面での教育条件の維持の観点から、財政的な面での困難が予想される。
- ③保護者・教職員・地域一般のそれぞれほぼ2/3が、東西各1校への統合に賛成している。(アンケート結果)
- ④現在の7校が地域と密接に結びついており、その良さを可能な限り生かす統合になることが望まれる。

〈骨子案②〉統合計画の策定について

■統合計画策定委員会を設置し検討すること。

(ポイント)

- ①小学校の適正配置の問題は、学校の在り方のみならず、村山市の今後の発展計画や財政等、多様な問題を含んでいる。
- ②統合計画の策定にあたっては、楯岡中学区、葉山中学区を分けて考える。
- ③村山市・教育委員会で統合計画策定委員会を組織し、専門的な意見を集約し、地域や学区民の意見を十分聞きながら進めることが望ましい。

〈骨子案③〉統合時期・方法について

■同一時期・方法にこだわらず、地域や学区民の合意が得られた地域から可能な限り早期に統合を進めるべき。

(ポイント)

- ①アンケート結果によると、各学校が置かれている客観的な状況に違いがあるので、必ずしも同一の時期や方法にこだわらず、楯岡中学校区、葉山中学校区で、それぞれ合意のできた地域から統合を進めるべき。
- ②統合案を可能な限り早期に策定し、地域との合意を得て統合を進めるべき。

〈骨子案④〉小学校教育のより一層の充実のために

■ワーキンググループの設置と統合計画の推進

(ポイント)

- ①新しい小学校への統合の目的は、小学校教育のより一層の充実にある。
- ②統合計画を推進するにあたり、策定委員会の中に、施設及び教育計画等に関するワーキンググループを設置し、その案も併せて検討しながら進めるべきである。
- ③保護者、教職員、地域住民の望む学校を意識し、さらに小中学校のタテ・ヨコのつながりをも重視しながら今後の統合計画を進めること。

村山市小中未来スクール構想

【こんなことができる学校に】

時空を超えた「学び」「つながり」そして「感動」
↳ 一歩先を行く、他にない特徴を持った学校

理想の学校像



どこまでもつながる
楽しい

学び

- ・ピカイチ英語力
- ・一歩先行くICT活用力
- ・学力ナンバーワン

幼保中連携で、
英語ペラペラ

パソコン・Dx
先進的活用

基礎的学力・
定着充分！

どこまでも広がる
ワクワク

交流

- ・ゆたかなで多様な地域内交流
- ・多チャンネル友好都市交流(国内外)
- ・各種協力団体等の連携強化

遊び・仲間
熱中交流時間

カッコイイ大人、
魅力的なグループ

どこまでも深まる
バラエティあふれる

体験

- ・地域の自然・文化の積極的活用
- ・地域の先生との連携・支援・応援

地域の宝物
あふれる自然・
歴史・文化

書家・画家・
陶芸家・そば
打ち名人等々

小中未来スクール構想会議

村山市の小中学校の理想像の検討

No.	検討の視点	内 容（出された意見等）
1	これからの社会変化に 十分対応できる 「目指す学校像」	<ul style="list-style-type: none"> ○社会の変化に（国＝グローバル化、多様化、情報化、技術革新…） ○1クラス25人前後の学校（小学校の集団サイズ＞中学校の集団サイズ） ○クオリティの高い周辺環境を備えた学校 ○多様な人材が関わる学校 ○いろんな組織とつながり、魅力にあふれる学校 ○小中連携・中中連携が可能な学校 ○世代間交流が可能 ○「地域と国際」の両面を持った学校 ◎一步先をいく、他にない特徴・特質を持った学校 ◎「ふるさと学習」が充実した学校（地域の宝物の活用） ◎地域での「体験活動」が9年間繰り返しできる仕組みのある学校
2	子どもたちが備えるべき 資質能力が存分に学べる 「目指す子ども像」	<ul style="list-style-type: none"> ◇徳育・知育・体育…（チャレンジ力・熱中経験）◎基礎学力の定着 ○世界的な基準による学力・各種能力等（①新たな価値を創造する力 ②対立やジレンマを克服する力 ③責任ある行動をとる力）◎ICT活用力 ◎英語力/コミュニケーション力 ◎主体性 ◎リーダーシップ ◎豊かな創造力 ◎想像力豊かな人間性
3	最適な 学校制度 ・ 学校間のつながり (東・西) (小・中)	<ul style="list-style-type: none"> ①従来の小学校・中学校制度（小中連携） ②小中一貫型小学校・中学校 ③義務教育学校（9年間一つの学校） 【小中一貫カリキュラム/発達順応型4・3・2制/学校独自教科設定等】
4	幼児教育の充実 (幼保小中連携、学童保育等)	<ul style="list-style-type: none"> ◎しっかりした幼保小中の連携（教育システムの連携/教員間の連携） ○十分な「遊び」が可能な体制 ○学童保育等の整備・継続
5	その他 (地域を大切にした学校 運営等)	<ul style="list-style-type: none"> ○芸術 ○家庭の食事 ○読書シティ（充実した読書環境） ◎特徴のある教育プログラム（共通プログラム・特色あるプログラム…） ◎整えるべき教育環境 ◎各地域を大切にした学校運営 （ex.少人数指導体制、更なるICT環境整備、コミュニティスクール化等）

村山市小中未来スクール構想

【地域とともにある学校づくり】

統合後の地域の在り方

1 各小学校区の価値ある教育資源の再発見、活用、融合

[表]各小学校の主な教育的資源 (共通＝最上川)

学区名	主な教育資源	学区名	主な教育資源
楯岡小	楯山・合唱・学力・人間教育	大久保小	そば・キャリア教育(外部人材活用)
大倉	居合・フットパス	富本小	森林活用・PTA・自然・スキー
西郷小	河島山(歴史・自然)・アグリランド	戸沢小	歴史・白鳥十郎・方言・ひっぱり
袖崎小	三島通庸・古代地名大室	富並小	紅花・じゅんさい・鬼甲城

2 学校運営協議会(コミュニティースクール)

○現在全国的に「コミュニティースクール化」の流れ

⇒学校を地域住民が支え、ともに運営する学校
(地域と協働による学校運営)

3 各種団体や企業、NPO、そして地域住民とのコラボレーション

○より充実した学校運営をするために、地域内外の各団体等との連携協力は必須(連携したくなるような魅力的な学校づくり)

村山市小中未来スクール構想

【考えられる学校の在り方】

	I.現体制維持	II.小中一貫教育	
形態	1. (小中連携)	2. 小中一貫型学校	3. 義務教育学校
修業年限	小学校6年/中学校3年		9年 (前期6年+後期3年等)
組織	小中に各々の校長 (2人の校長) と教職員組織		小中で1人の校長、 一つの教職員組織
教育課程	○独自で教育目標 ○小学校の教育課程	○9年間の教育目標 ○9年間のつながりや組み立てに配慮	
特例	原則なし	○一貫教育に必要な独自教科の設定 ○指導内容の <u>中学への先送り</u> 、 <u>小学への前倒し</u>	
学年区切り	小6-中3制	4-3-2制 や 5-4制 など可	
施設形態	分離型	分離型 か 一体型 か 隣接型	
想定される 学区	東部学区 (楯岡中学校区)	両学区で可	西部学区 (葉山中学校区)